

町民活動団体紹介 18

より良い地域づくりのため活動をしている団体を紹介します

団体名 のぎ水辺の楽校応援倶楽部

◆活動内容

- 1.湧水を生かした老若男女が集える水辺自然公園づくり
- 2.子供たちが体験を通して学習できる安全な自然公園整備
- 3.湧水を利用してゲンジボタルの舞う水路づくりとホタル祭りの実施
- 4.バーベキュー広場の設置や新たな散策路の開発
- 5.のぎ水辺の楽校の環境整備、遊歩道の草刈り、ヨシ焼き希少植物の保護・育成等

◆活動日 毎月第2・第4日曜日 8時30分～11時00分

◆会員数 男性28名 女性11名 合計39名

◆活動場所 のぎ水辺の楽校の清水谷

◆ひとこと

子供のころ遊んだ基地づくりの延長です。みんなで考え、得意な分野を中心に楽しく活動しています。活動状況を見学に来てください。



町民活動とは、営利を目的とせず、社会的な課題の解決に向けて町民が主体となって行う社会貢献活動のことです。

・当団体のことにつきましては…問松平 親夫 ☎090(6152)4598

みなさんも楽しく、元気に町民活動、ボランティア活動に取り組んでみませんか。ご興味のある方は、ボランティア支援センターきらり館まで、お気軽にお問い合わせください。

・町民活動等につきましては……問ボランティア支援センターきらり館 ☎0280(23)1231

広報連絡委員レポート№.413

令和から昭和へ、DTC「チキントク」



広報連絡委員
小村 敏雄

新型「コナウイルス」の感染拡大がなかなか収まりません。赤レンガ製造で歴史的な建造物として国の重要文化財である「野木町煉瓦窯」旧下野煉化製造会社煉瓦窯を中心とした各種プロジェクトが開催中止。「野木町煉瓦窯座談会」記憶に残る煉瓦窯は、かつての煉瓦窯や周辺地域の様子を自らの体験・記憶に基づき、昭和時代の煉瓦窯に関わりのある方々（現在80歳後半が多い）に「語りべ」となっていた会でした。

開催前の打合わせで語った、思い出・記憶の一部を記しておきます。（内容相違点につきましてはご容赦願います）

◎入社当時、初任給は8千円程度（昭和26年～平成13年まで勤務・会社の金庫番として経理を担当）

◎昭和30年代の主要はセメントで煉瓦は東京ガスをはじめ、国鉄からの発注もあった。

◎会社敷地内に思川から引込ドックがあり、遊水地から良質の粘土を調達。縦横に巡るレール・トロッコで原料や製品を運んだ。

◎両親とも煉瓦製造に従事し、父は熟練職人で工場長を務めた。

◎昭和46年入社。技術職員であったが、煉瓦製造が終了し、貴重な遺産として煉瓦窯の保存作業を行い、跡地利用計画に携わった。シモレンでは約百名が職員、10名程が技術者であった。

◎修繕工事や煙突内の煙道の確認を通し煉瓦窯への愛着が深まった。

◎昭和23年～39年まで煉瓦の運送を担っていた当時は「馬車引」で4人の仲間と引き受けていた。自前の馬車一台で煉瓦窯～古河駅を約千本の煉瓦を積み日に3往復した。運賃一日千円、工員日当230円。輸送手段は昭和38年頃にトラックへ。

◎煉瓦製造中、窯の煙突から白い煙が立ち昇り、窯の周りにはレールが敷かれ、男たちがトロッコを押す姿、女性たちが木製の板でパタパタと煉瓦の成型作業をしている姿が見られた。

◎敷地内の防空壕が遊び場、事務所での映画鑑賞も行った。

◎社宅の子ども達とお楽しみ会、旅行、窯で焼いたイモの味忘れじ…まだまだ沢山の思い出があります。

◎今後煉瓦窯に関わる情報・資料等々の提供を期待します。